

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970300448		
法人名	株式会社ユニマツトそよ風		
事業所名	栃木グループホームそよ風		
所在地	栃木県栃木市沼和田町10番10号		
自己評価作成日	平成23年10月28日	評価結果市町村受理日	平成24年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6
訪問調査日	平成23年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

栃木グループホームそよ風は、栃木駅南口の静かな住宅街に立地しており、日当たり良好で隣には芝生の公園、近くにはスーパーと抜群の環境です。落ち着いた雰囲気の中、出来る自分の力を活かしながら自分らしさを保って過ごしていける住まいです。職員はお住まいの方の人権尊重を基本方針として入浴や排泄、食事や家事等の日常生活を支援してお住まいの方が笑顔で生き生きと暮らしていけるよう、見守り支えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは栃木駅南口から徒歩数分程度の静かな住宅街にあり、公園やスーパーに隣接した生活しやすい立地条件である。また、ホームの母体法人は全国展開しており、栃木県内にも8か所の事業所があるため、それぞれが連携し運営にあたっている。人権尊重を基本理念に、「楽しい・嬉しい・ほっとする」ホームを目指し、一人ひとりにあった声かけや無理強いしない支援に取り組んでいる。さらに、出来ることは役割をもって行ってもらうことで、ハリのある生活を実践している。家族会があり運営推進会議や行事への参加が積極的に行われ、家族の意見や希望が発信しやすい環境にある。これまでのかかりつけ医との関係を続けながら、緊急時にはホームの協力医の診察を受けることが可能なため、安心して生活することができるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で生き生きと誇りを持って生活出来るホームを目指した独自の理念を作り上げている。朝礼時に理念を唱和し常に理念に向けた具体的ケアの統一の実践に努めている。	「入居者の人権尊重を基本に、楽しい・嬉しい・ほっとする、あたりまえの感情を持てる時間を大切に、安全に生き生きと生活出来るよう支援する」というホーム独自の理念を、毎朝朝礼で唱和している。声に出すことで職員の気持ちが同じ方向に向かい、ケアに向かう姿勢を確認し共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており地域で開催されているお祭りや敬老会に参加している。近隣の保育園児と年4回の交流、地域ボランティアのお花の講師による月1回生花教室を開催している。	新興住宅地に建ち、日中仕事をしている人が多いため、密接な付き合いはできていない。しかし、自治会に加入し、地域行事への参加、保育園児との交流を行っている。また、法人の納涼祭開催時には近隣に呼びかけ、多くの参加を得ている。	自治会の回覧板等を活用しつつ、見学会や研修会を実施したり、ボランティアを募集してみるなど、地域の方に積極的な働きかけをし、地域との交流を深める工夫を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の方々と交流する中で認知症の理解していただけるよう取り組んでいるが、地域貢献については実践出来るようになってはならない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況や活動など報告し委員の方からのご意見・情報提供して頂き、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は定期的に開催し、民生委員や利用者・家族と密接な意見交換を行っている。委員からの情報提供もあり、地域の老人会を紹介してもらったり、民生委員にお花の講師依頼をするなど、徐々につながりが広がってきている。	運営推進会議の構成員について、消防関係者や小学校の先生等と呼ぶなども視野に入れ、幅広い意見をもらいながら地域とのつながりの幅を更に広げ、サービスの向上に活かされることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員でもある地域包括支援センター職員に推進会議参加頂き、ホームの現状や課題等の共有化に努め連携を図っている。	地域包括支援センター職員が市職員でもあることから、運営推進会議に参加してもらうとともに、具体的な相談に乗ってもらったり、他のグループホームの事例等の情報を提供してもらえる関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠やベットの壁から離して配置し全体に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員研修や月1回の全体会議で身体拘束について共通理解を図り、ケアの統一を図っている。新人研修の場面や具体的な事柄については、管理者が個別にかかわり、対応を確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は研修会に参加し全職員へ周知徹底しホーム内での虐待防止に努めている。		

栃木グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修参加の機会を確保し必要に応じた支援体制の整備に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当初の契約に限らず制度改正に伴う報酬加算、料金改定の説明を分かりやすく明示し納得、同意をえている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回定期的に家族会を実施し思いや意見を表せる機会を設けている。また意見や要望が表せるようアンケートを実施し改善に取り組む。	面会時に話を聞いたり、新年会、納涼祭に合わせて家族会を開催し、家族との交流を深めている。今回初めて家族アンケートを実施し、結果を法人全体で共有し、今後の行事やケア・運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	センター会議、セクション会議に出席し職員の意見や提案についての意見交換されている。	管理者と職員は日頃から気兼ねなく意見交換できる雰囲気がある。月1回の全体会議では全ての職員に発言の機会があり、ケアの取り組み方や設備の改善など、職員から出された意見が運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場第一主義を念頭に置き職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を定期的実施しておりスキルアップにつながっている。外部研修に於いても情報交換と時間の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会主催の研修に参加することで他事業者間との交流の機会が確保され、情報の共有が図れている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学も含めて来所してもらい面談の機会を確保し本人を交えて確認とり心理的不安の軽減に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学も含めて話し合いの時間を確保し家族の訴えを聞き家族と一緒に本人を支援していく姿勢で関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状必要とされていることを本人家族の言葉から把握し専門的知識を持って初期対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は自立支援を心がけ本人の出来る力、持っている能力を活かしながら共に生きる姿勢で思いを共感し支えあう関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に支援して行くという姿勢で日頃の様子や変化など本人の情報を共有して本人と家族の継続的な関係が保てるようにしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り親しい人との交流が継続出来るよう馴染みの場所へ関われるよう努めている。	本人の通い慣れた美容院や商店を可能な限り利用できるように支援している。また、家族の協力で外泊や外出をするなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で自然と助けあった生活が出来るように支援している。			

栃木グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの違いを尊重し、その方に合った暮らしが出来るよう言葉だけではなく感じとれる感性をもって関わられるよう努めている。	利用者個々の表情や言葉、態度から思いや意向をキャッチするケアを実践している。また、家族等からも昔好きだったものなどを聞いている。把握した思いや意向については職員同士で確認と共有をしながら、ケアに生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の生活背景の聞き取りにより状態の把握に努め、不十分なところは家族、関係機関により確認を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの中で出来る力、分かる力を明確にし一人ひとりの暮らしぶりを観察分節し把握出来るようにする。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時、更新時、入退院時等本人家族・担当職員・ケアマネ・主治医の意見を反映した介護計画を作成している。	介護計画作成時には、家族からの情報や本人の話、行動から現状を把握し、主治医や職員の意見を取り入れ目標を設定している。また、一か月に1回カンファレンスを実施し、モニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画は期間に応じた見直しは随時行っているがカンファレンス・モニタリングにより見えてきた課題については見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	部分としてのサービスにならないよう変化に応じて必要となる支援を柔軟に検討している。		

栃木グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて民生委員やボランティアや地域の方の場の力を借りて支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者が主治医としている医療機関での受診が継続しており、状況によって協力医での受診されている。家族が同行出来ない時は支援している。	入居後もかかりつけ医は変更せず、家族の協力で受診を継続している。かかりつけ医受診時には本人の状態を家族に伝え、主治医に必要な情報が提供できるようにし、主治医とホームが十分な連携をとれるようになっていく。必要な場合には職員も同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員がおり適切な健康管理や医療活用が来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、医療機関との連携を図り指示指導を受けたり情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の重度化に伴い、早い段階から家族や主治医と繰り返し話し合い、最大に支援方法や方針を全員で共有するよう努めている。	現在看取りの実績はないが、主治医・家族・職員間で情報を共有し、その都度方針を決定し、ケアを行っている。医療行為が不要な寝たきりの利用者やストマ装着の利用者に対しても、積極的なケアを実践している。	重度化や終末期に、事業所としてどのようなケアができるのかを書面で示すことで、家族や職員が方針を共有できるので、早い段階で方針を話し合い、状況に合わせた支援がスムーズに実施できるよう、期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの整備や研修により、基本的な応急処置についての知識はあり実践力を身に付けるよう取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練を実施(年2回)地域住民の協力体制の働きかけを行っているが、体制づくりは不十分である。水や食料の備蓄管理行っている。	定期的な防災避難訓練を実施しており、法人全体で取り組んでいる。夜間には法人内のショートステイや高専賃との避難体制の確立や地域の協力の必要性を感じているが、まだ実施するまでの協力関係には至らない。水や食料の備蓄は実施している。	夜間を想定した防災避難訓練や法人内に留まらず地域の協力を得ての訓練を行うなど、運営推進会議や近くの民生委員の理解を得ながら、地域との協力体制の早急な構築を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権侵害をしないこと入居者一人ひとりの違いを尊重し、さりげない心のこもった言葉かけ対応を心掛けている。個人情報記載された書類に関しては書庫に保管し管理している。	利用者一人ひとりを尊重し「こうしてほしい」と思われる支援を職員全体で心がけている。排泄時の声かけは、声の大きさや話し方に配慮し、自尊心を傷つけないように行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が感情表現出来る雰囲気作りをしている。指示ではなく常に伺う姿勢で声掛け自己決定出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが入居者一人ひとりのペースに合わせた生活の流れを心がけて見守りながら生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者本人の希望に合った服装や髪型が出来るように一緒に選んでいる。馴染みの美容室に出かけたり美容師に来てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の食材カット、盛り付け、配膳など役割分担や自主性に行い、作業順序とさりげなくアドバイスし混乱しないようにしている。	食事は職員も同じものを一緒に食べている。利用者それぞれが役割を持ち、体調や気持ちに配慮しながら食事の準備にかかわっている。昼食は法人の厨房で準備するが、朝食夕食はホームで調理し、楽しみながら食事を取る事ができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス・カロリーは栄養士が管理。咀嚼力や食事量によって個別に対応し水分量が少ない時は声かけし摂取促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。自らは行えない時は声かけ促し清潔保持に努めている。		

栃木グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンを把握し、個人のリズムに合わせ声掛けしたりトイレ誘導したりしている。一人ひとりの力に合わせ夜間だけポータブル使用するなどの支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを確認し、トイレでの排泄支援を実践しており、日中はほぼ全員がトイレで排泄している。夜間は利用者の負担にならないように配慮し、時間で声かけを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に乳製品や繊維質の食物を摂ったり、散歩や体操を行っている。チェック表を確認し利用者によっては便秘薬の服用を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は大体決まっているが、一人ひとりのタイミングを尊重し体調や身体状況確認の上基本的には毎日行っている。	毎日午後3時ごろから夕食前に入浴を行っている。希望があれば他の時間帯にも入浴は可能で、入浴拒否の利用者に対しても声かけやタイミングを計り、少なくとも週2回は入浴が出来るように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活習慣個人活動状況に応じた生活リズムの安定に努めている。排泄のチェックや寝具等の調整により安眠出来るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬リストを作り内容把握し、主治医の指導のもと管理している。処方箋はファイルいつでも確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を提供し持っている力を活かすことで自信を取り戻し、楽しめる暮らしを支援する。回想法による会話で生涯の楽しみごと見出す。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候を考慮し散歩や買い物、少人数でのドライブを行っている。	基本的に散歩は毎日実施している。車での外出は3名くらいずつに分かれ、少し離れたスーパーや太平山、菊祭り等に出かけている。外食は回転すしが喜ばれているので、今後も続けていく予定である。	

栃木グループホームそよ風

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	通常事務所で預かりしているが、個人の力量に応じて買い物等本人が行えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも事務所の電話は使用可能である。入居者によっては手紙のやり取り行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は採光・温度・テレビの音などに配慮し季節感のある飾り付けを心がけている。	共用空間はユニット毎に月単位で掲示物等を交換し、季節感のある飾りや利用者の制作した作品等を飾っている。テレビの前には大きなソファが置かれ、利用者が集まりやすい空間になっている。エレベータの前や外にもベンチを置き、ゆったりと過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前などにベンチを置くなど独りになれたり利用者同士で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の物や馴染みの物を自由に持ち込んで頂けるようにし、カーテンなども好みの色や柄を選んで頂いている。	居室は一人ひとり好みの家具が持ち込まれ、バラエティに富んでいて、カーテンは好みの物を使用し、安心できる空間になっている。また、編み物をしたり好きな事が出来る、ゆっくり過ごせる空間づくりに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリー・随所に手すり設置、滑りにくい床材を使用し、自立した生活出来るよう環境整備している。トイレの表示や居室の表札で分かりやすいよう工夫している。		